

今週のみことば

「すべてのことに時がある」

(伝道者の書 3 章 1 節～15 節)

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。」(3:11)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○詩編には、たびたび「主よ、いつまでなのですか」と嘆く祈りに出会います。このように祈るのは、神様が時を支配しておられる、と信じているからです。

神様は、時をどのように定めておられるのでしょうか。私たちのことなどお構い無しでしょうか。決してそうではない、と私は信じます。いつとき私たちに苦しい時をお与えになったとしても、それはトンネルをくぐるようなもので、必ず向こう側に光を備えてくださっている。私たちがそう信じて、希望を失わない理由は、神様が愛なる方、恵みの方だからです。

○11 節に「神のなさることは、すべて時にかなって美しい」とあります。ゼミの教授が「これは I コリント 13 章の不作法をしないという言葉に通じる」と、話されました。「ここに神の愛は無作法をしないとある。これは神様がその時その場の礼儀にかなったことを、君たちにしてくださるということだ。だから君たちは、与えられた時が良くても悪くても、一定の敬意を払って、その時々を感謝して過ごしてください。試練の経験も後になって、きっと他の人を慰める力となる。だから、よい時も悪い時も無駄にしていけない」と話してくださったのです。この恩師の言葉は今も心に残っています。

○時が良くても悪くても、神様が備えられた道を黙々として受け入れ、歩み抜いた人と言え、イエス様です。イエス様はマルコ 1:15 で「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい」と言って伝道を始められました。

この時という言葉は、カイロスという神様の時を示す言葉です。普通の時計の時はクロノスと言うんですね。イエス様は、マルコ 14:41 でも「時がきた。人の子は罪びとたちの手に引き渡される」と言っておられます。イエス様は日々、「神のなさることは、すべて時にかなって美しい」と感謝の思いを抱きつつ、日々を送られたのではないのでしょうか。

○私、大きな手術を受けた時、励まされた話があります。それは、かつて鈴木正久牧師の逸話です。先生は若くして肝臓がんによる死の告知を受けました。多くの人が癒しを求めてあつい祈りを捧げました。先生はたんと誠実に日々を送られ、そして命の灯が消えゆく臨終の時、「神のなさることは時にかなって美しい」と言い残されたそうです。主が自分のような者に目をとめ、慈しんでくださったことを感謝し、人生を神にゆだねた者として、時を受け入れていかれたのです。信仰者の心意気を見る思いがします。その話を聞いたあと、私も病院のベッドの上で、その御言葉を唱えて、大きな声で祈って、手術前の平安をいただきました。人生は、すべてのことに時があります。しかし「神のなさることはすべて時にかなって美しい」と、御言葉にある通り、その時その時を感謝し、敬意をもって歩んでいこうではありませんか。